排外主義は民主主義を壊す

政治情勢として、まことしやかに排外主義の浸透が拡がっています。その根底にあるのは、社会的諸矛盾の拡大、経済的な不安定さの広がり、心理的な将来に対する不安、社会的疎外感、などが大きな社会的基盤になっています。

２０００万人を超す非正規労働者、長時間労働、生活必需品の高騰、福祉の切り捨て等々、経済的に困窮している人々が拡大しています。

排外主義は、社会に対する不信感、不満、要求、怒りを、移民・外国人への敵対的、攻撃的な対応で、外に向ける風潮を煽り立てているのです。

その流れは、高齢者やその他の弱者にも、厳しい目が向けられています。さらに、政府の政策に反対する人々、平和を求めるより広い層への攻撃として、人権や言論の自由への制限につながる可能性を強めています。

世界的にも自国第一主義の右翼ポピュリズム政治が拡大しています。この傾向は、戦争への道につながる危険性を高めています。軍事費の拡大、徴兵制、マスメディアへの規制、異論を唱える勢力に対する「非国民」「スパイ」呼ばわり、国家による統制を正当化する動きが強まっています。デマと差別が蔓延する社会にしてはなりません。

求められるのは、経済的不安を軽減する民主的政治、すべての人々が平等に個人として尊重される社会、他文化共生の価値観をもてる社会的教育です。額に汗して働く人々による労働者運動を各職場や地域で活かすことが、人と人との関わりを大切にする民主主義社会を築く力になります。

労働大学 学長　**須藤　行彦**